

令和2年度 地区別人権教育研究協議会

令和2年11月19日（木）

本校の人権教育の 取組について



昭和村立昭和中学校

1. 人権教育の調査研究テーマ

「自他を尊重し共存するよさを理解し、人権感覚と人権意識を身に付け、身近な人権問題に気づき、正しく判断し、行動できる生徒を育成する」

2. 現状の分析

○学校評価アンケート（平成30年12月実施）から

生徒 「相手を尊重して行動ができる」…93.5%

保護者「自分の子が相手を尊重して行動できていると思う」
…94.4%

○学校生活の様子から

- ・生徒同士の言葉遣い・行動による軋轢に悩む様子
- ・自己中心的な態度や心ない発言に起因するトラブルが多い
- ・自己改善への気持ち、他者を理解しようとする気持ちが希薄

意識と実態に大きなギャップがある。

道徳教育や人権教育の充実が必要ではないか？

2. 現状の分析

人権教育アンケート

令和元年12月～実施

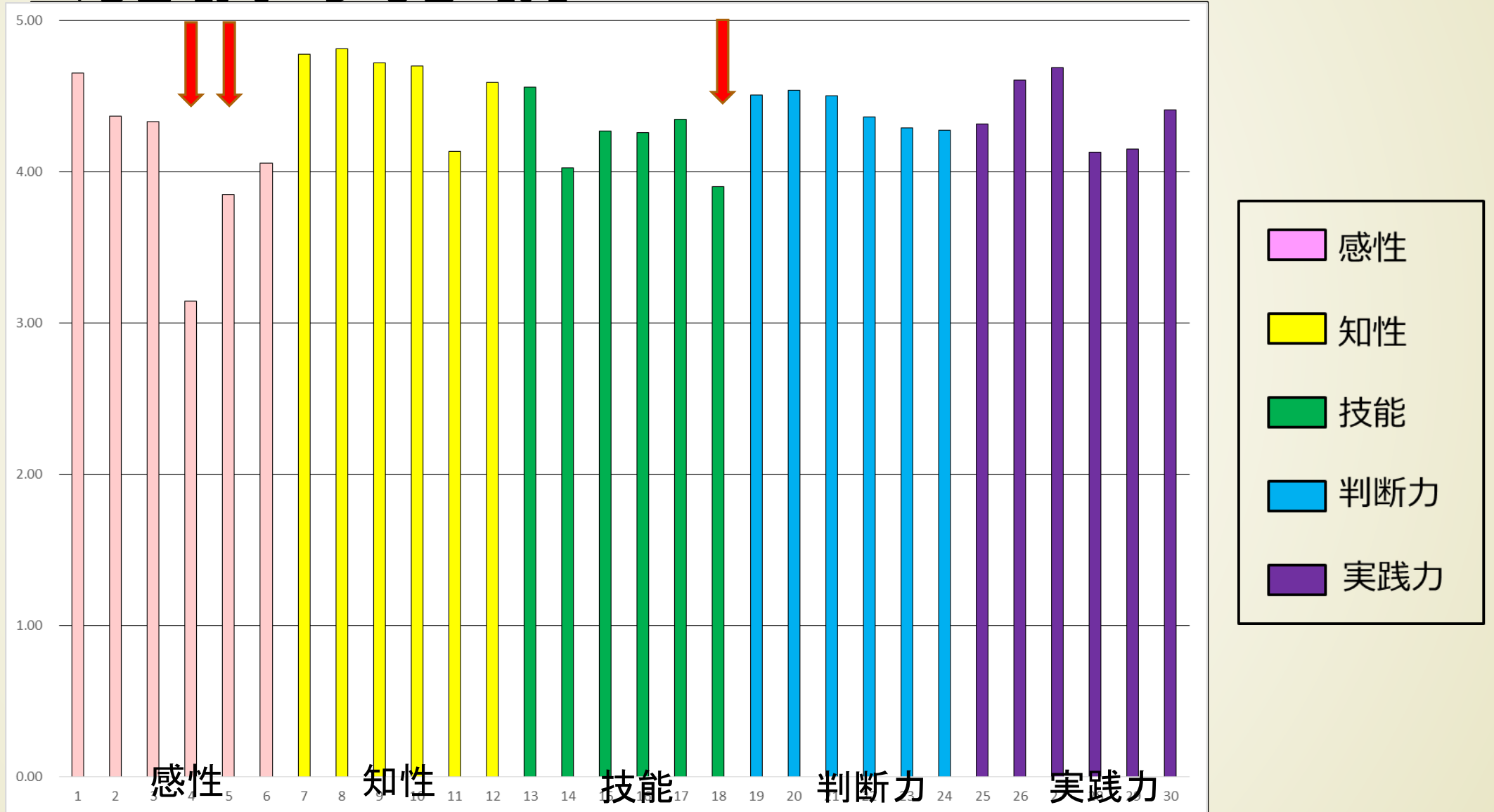
昭和村立昭和中学校

人権教育アンケート(原案)

観点	育てたい能力・態度(中学校)	アンケート質問事項
A 感性	1 自己理解と自尊感情	1 どんな時でも自分の命を大切にしています。
		2 ありのままの自分を受け入れたいと思っています。
		3 自分には、欠点もあるけれどよいところもあると思います。
	2 身近な人権問題への気付きと共感	4 身近に「差別や偏見につながるのではないか」と思うことがあります。
		5 誰かをバカにしたり差別したりしているのを見ると悲しかったり腹が立ったりします。
		6 差別を許さず正義を守ろうとする気持ちがあります。
B 知性	1 人権の意義、権利や義務の理解	1 人は、誰も一人一人価値のある存在だと思います。
		2 誰もが人間らしく生きるために必要な権利があることを知っています。
		3 集団の中で責任を果たすことは大切です。
	2 人権課題の理解	4 自分のまわりには様々な価値観をもった人がいることを知っています。
		5 身の回りにいろいろな差別や偏見があることを知っています。
		6 社会には様々な人権問題があることを知っています。
C 技能	人間関係能力に関わるスキル	1 友達の気持ちを考え、大切にすることができます。
		2 自分の気持ちや考えを友達に伝えることができます。
		3 誰とでも分け隔てなく、協力して取り組むことができます。
		4 自分と考え方や価値観がちがう友達とも関わる事ができます。
		5 よりよい集団をつくるため、多くの友達と協力して行動することができます。
		6 よりよい集団をつくるため、自分の考えを積極的に伝えることができます。
D 判断力	1 権利と義務の正しい理解	1 よりよい人間関係をつくるために、「考える」ことを大切にしています。
		2 よりよい集団をつくるためには、自分の責任を果たす必要があります。
		3 よりよい集団をつくるためには、積極的に意志決定に参加することが大切です。
	2 物事の公正・公平な判断	4 「やってよいこと」と「してはいけないこと」を正しく判断して行動しています。
		5 誰の意見に対しても公正・公平に判断し、評価するようにしています。
		6 誰の行動でも、公正・公平に判断し、評価するようにしています。
E 実践力	1 人権尊重の意識	1 どんな時も、相手の考えと自分の考えを照らし合わせて適切な判断をするようにしています。
		2 よりよい集団づくりに向けて、お互いの考えを尊重して生活したいと思います。
		3 人が人間らしく生きるために必要な権利を守りたいと思います。
	2 人権問題を解決しようとする態度	4 身近な集団で問題があれば、自分のできることを考えて行動に移すようにしています。
		5 よりよい集団づくりに自分から進んで参加しようとしています。
		6 社会の様々な人権問題の解決に向けて、自分ができることを考え行動したいと思います。

2. 現状の分析

令和元年12月実施 人権教育アンケート結果グラフ



3. 課題の明確化

- ▶ ・相手の心情を**想像**したり、自分の言動の影響を**見通**したりする力が弱い。
- ▶ ・人権を守る必要性は理解しているが、差別を許さず、正義を守ろうとする**人権意識**が低い。
- ▶ ・自分の考えを積極的に表現することを苦手と感じる生徒が多く、よりよい集団づくりに参画しようとする**実践意欲**が低い。

4. 人権教育の充実に向けた研究テーマ

主題

人権の大切さを理解し、気づき、考え、行動する生徒の育成
(目的：目指す生徒像)

副主題

全教育課程において、人権感覚を高める指導の充実を通して
(内容：分野・領域) (方法：手立て)

具体化した目指す生徒像

- ・ 自他を尊重して共存するよさを理解し、人権感覚と人権意識を身に付け、身近な人権問題に気づき、正しく判断し、行動できる生徒。

5. 調査研究の仮説

校内の推進体制を整備し、全教育課程において構造的な指導行えば、自他を尊重して共存するよさを理解し、気付き、正しく判断し、行動できる生徒が育成されるであろう。

6. 研究内容・方法

<各教科、領域の授業>

- ・ 人権感覚・意識を高めるため、自他の考えを交流し、わかり合ったり考えを深め合ったりする対話的な学びのよさを十分に実感できる指導を行う。

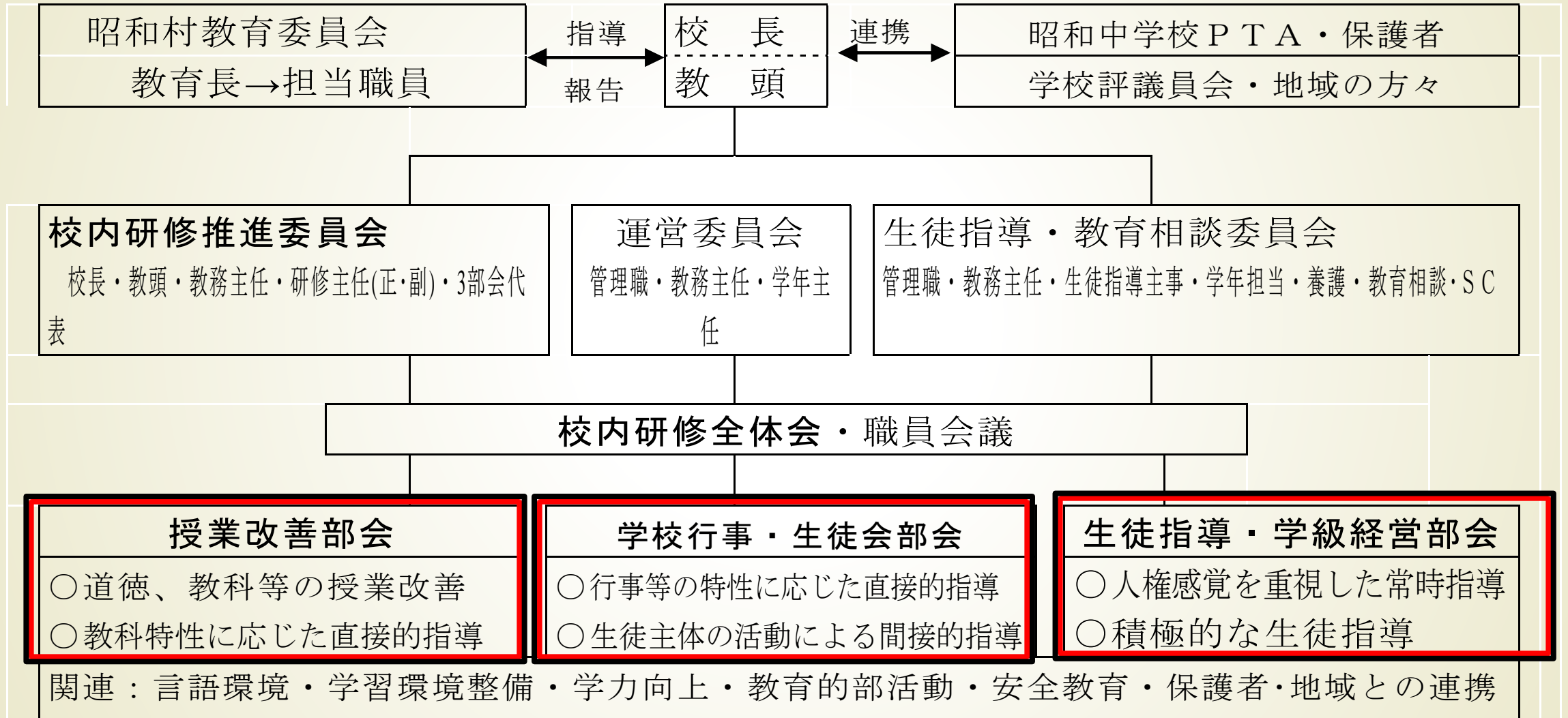
<学校行事・生徒会活動>

- ・ 主体性と人権感覚を高めるため、生徒会本部役員を中心に全校体制で生徒主体の取組を行うよう支援する。

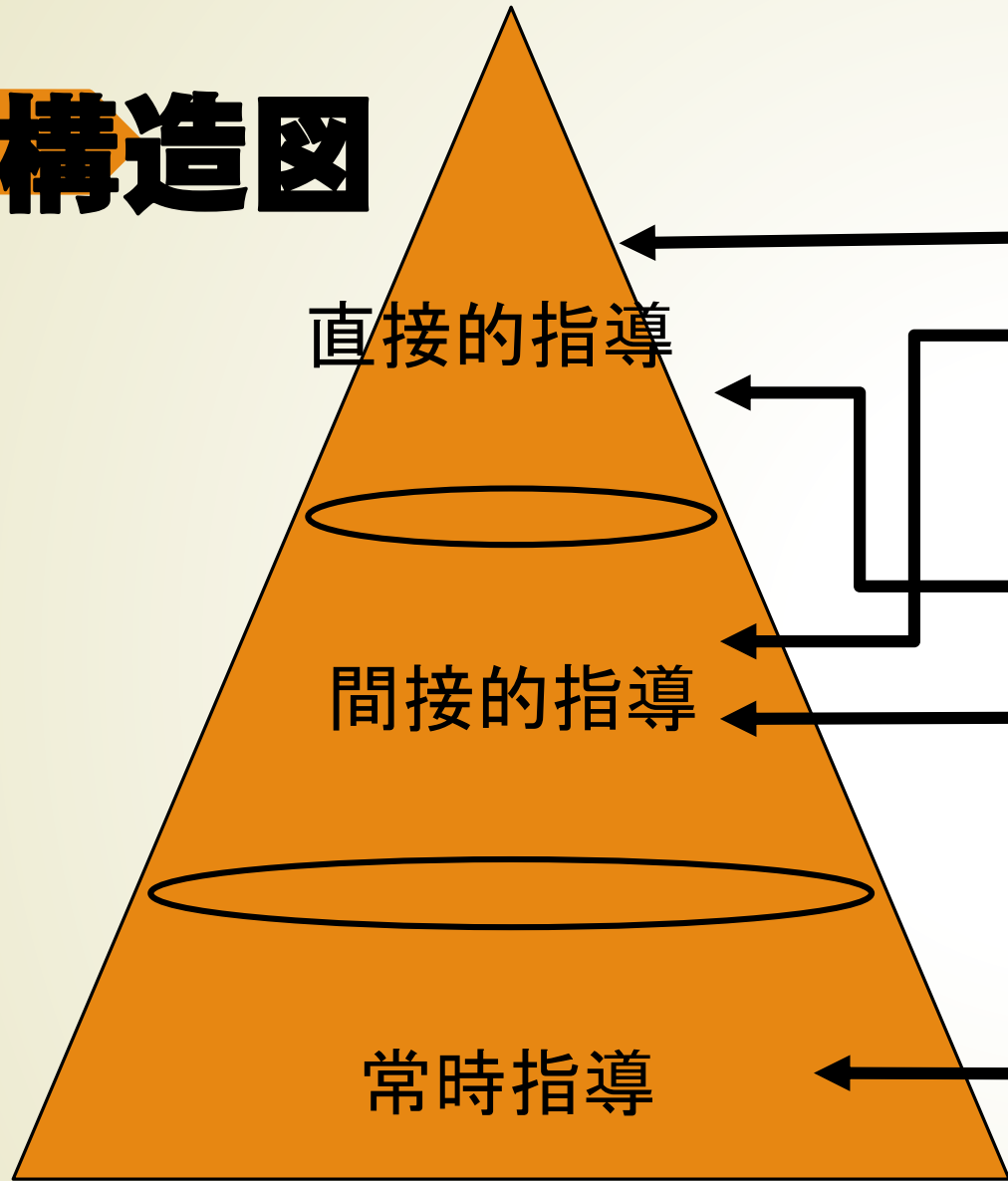
<授業中や日常生活>

- ・ 自己肯定感と実践意欲の高揚のため、教師の人権感覚を高めるとともに積極的な生徒指導を推進する。

7. 調査研究の推進体制



構造図



〈各教科・領域の授業〉

- ・ 人権を扱う学習内容
- ・ 対話的な学び

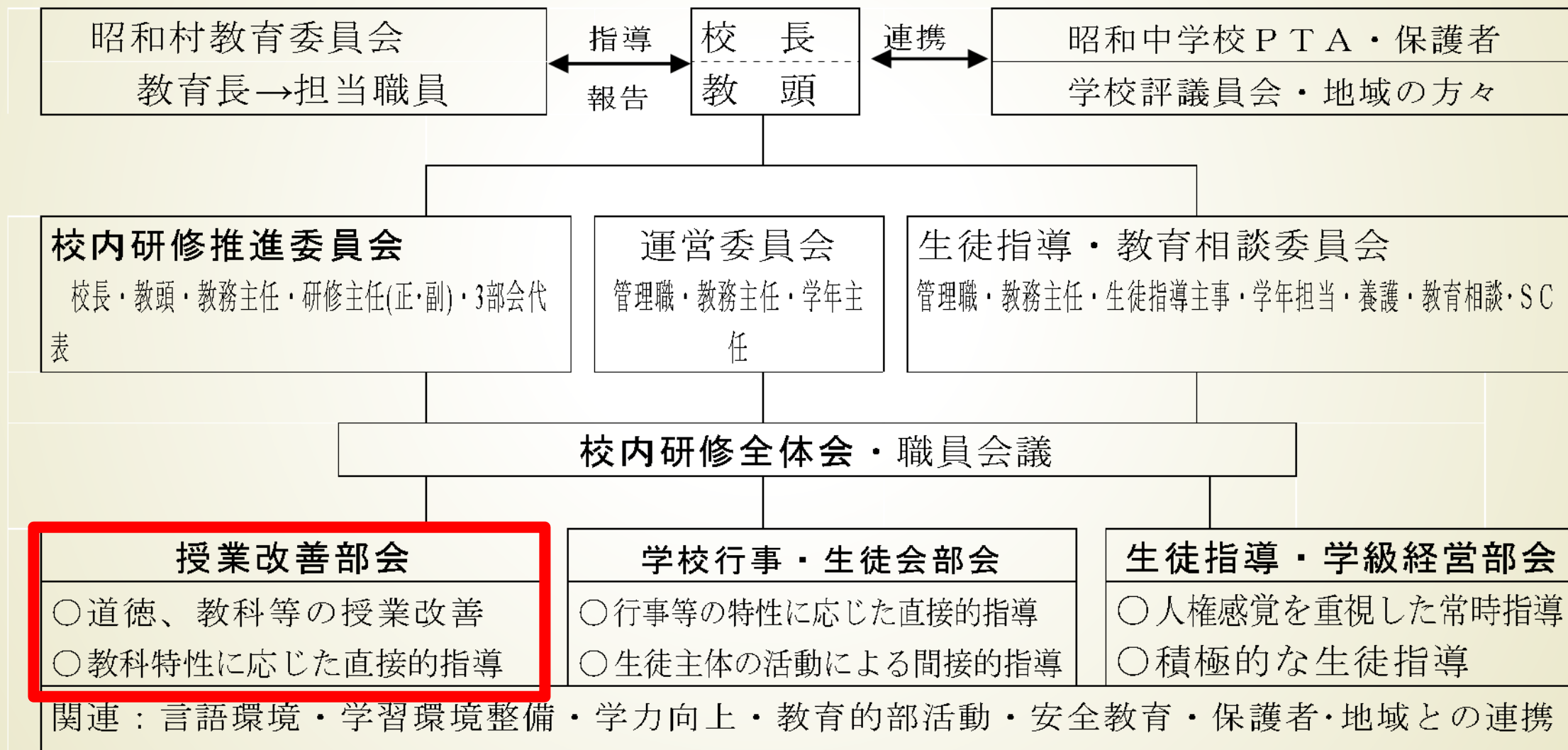
〈学校行事・生徒会活動〉

- ・ 人権週間等
- ・ 生徒主体の活動

〈生徒指導・学級経営〉

- ・ 教師の人権感覚の高揚と適切な指導
- ・ 生徒の活躍を認める場の設定

8. 各部会の取組



8. 各部会の取組

(1) 『授業改善部会』

取組 1 自他の考えを交流し、分かり合ったり、深め合ったりする

対話的な学びのよさを

実感させる指導

【間接的指導の充実】

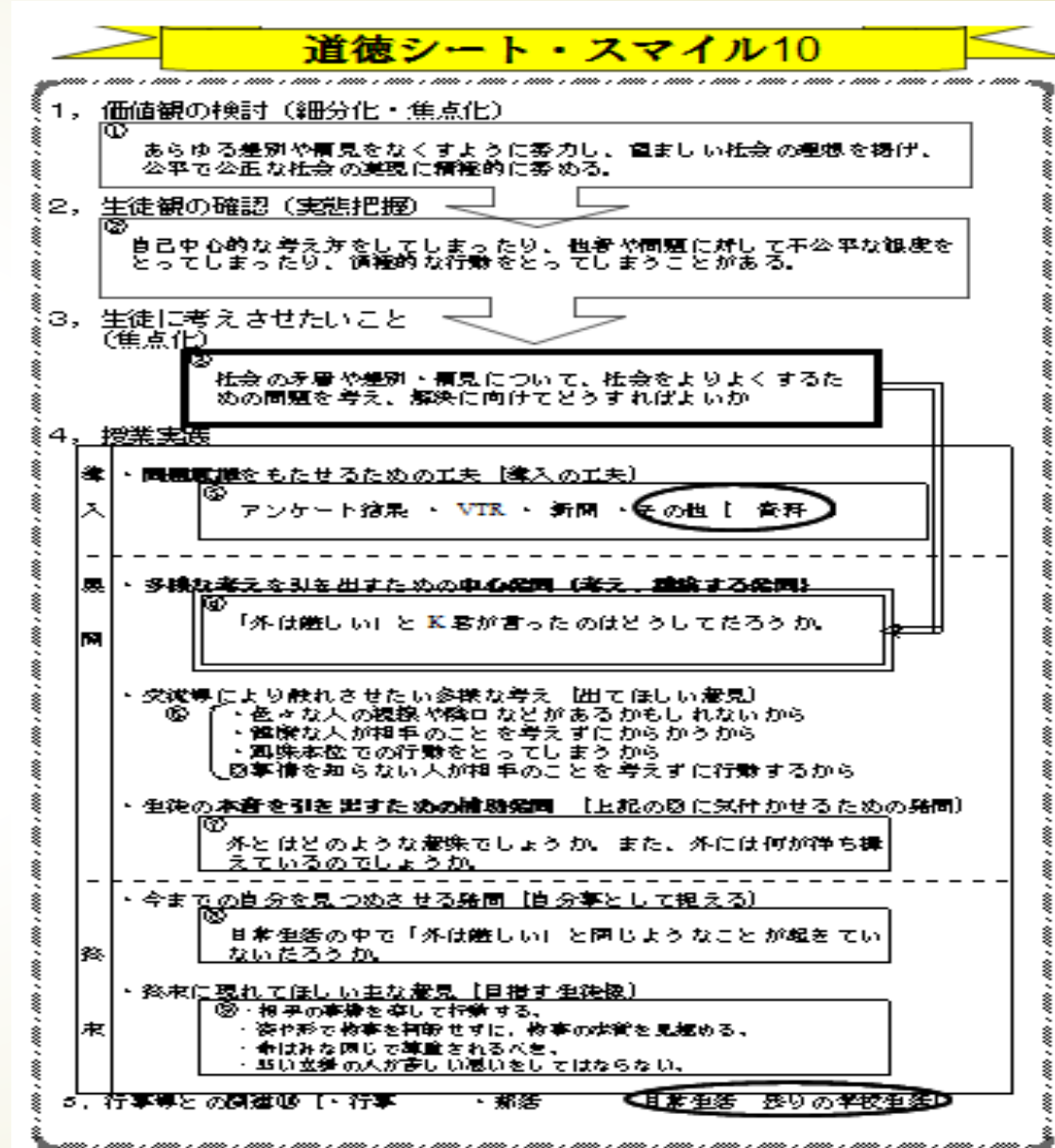


8. 各部会の取組

(1) 『授業改善部会』

取組2 「道徳科」において 授業構想シートの活用

→自分の考えを伝える技能
を身に付けられる授業
お互いの考えを深め合う
よさを味わえる授業



8. 各部会の取組 (1) 『授業改善部会』

取組3 一人1授業公開・ 授業研究会の実施

→授業の実践状況の確認
研修のリレー
(成果と課題の
積み重ね)



研究授業の様子



授業研究会の様子

自他共栄

昭和村立昭和中学校
研修だより
令和2年10月9日(金)
NO. 4

研修主題 人権の大切さを理解し、気づき、判断し、行動する生徒の育成
～全教育課程において、人権感覚を高める指導の充実を通して～



実践のまとめ
10/6(火)・見城先生・3年1組道徳

I. 本時の実践について 対話的な学びについて

- ◎成果
 - ・導入での言葉に注目させることで、本時のめあてにスムーズに入ることができた。
 - ・最初にめあてを提示し、自分事として考える場面でもう一度振り返ったことで、生徒の意見を引き出すことができた。
 - ・導入で使った言葉を終末でも利用していたことがよかった。
 - ・補助発問や教師の切り返しによって生徒の意見を引き出していた。
 - ・意見としてできた抽象的な言葉を掘り下げて問い返したことで分かりやすくなった。
 - ・終末で生徒の意見から具体的な学校生活をイメージさせることができた。
 - ・終末の時間が十分にあって多くの生徒が自分の意見もち、共有できた。

●課題&改善策

- ①今回の中心発問は授業者のこだわりで偏見や差別をテーマに考えたものだったが、多角的な考えを出し合うことを求めるのであれば指導者の中心発問の方がよかったか。偏見・差別というテーマを貫くという点ではよかったが、道徳的な深まりを考えると...
- ②自分事として考えさせるために、「残りの学校生活」と限定して考えさせたかったが、多様な意見を求めるのであれば限定しない方がよいのかもかもしれない。
- ③男女で分けるコの字の座席では、全体での交流やペアでの交流に向いている。グループでの話し合いには向いていない。



II. 研修のリレーについて

- ①中心発問は、迫りたい価値観を意識しつつ、多様な意見が出やすいものを用意しておく。多面的に考えられるように発問を練っていく。
- ②自分事として考える場面では、多角的な考えをもたせるのであれば限定的に考えさせないなど、スマイル10の使い方を練っていく必要がある。
- ③グループを作って交流させる場合にコの字は向かない。ペアや全体での交流がしやすく、前列の生徒が後ろを向くだけでグループが作れるので2列での対面にしてはどうか。

研修通信

8. 各部会の取組

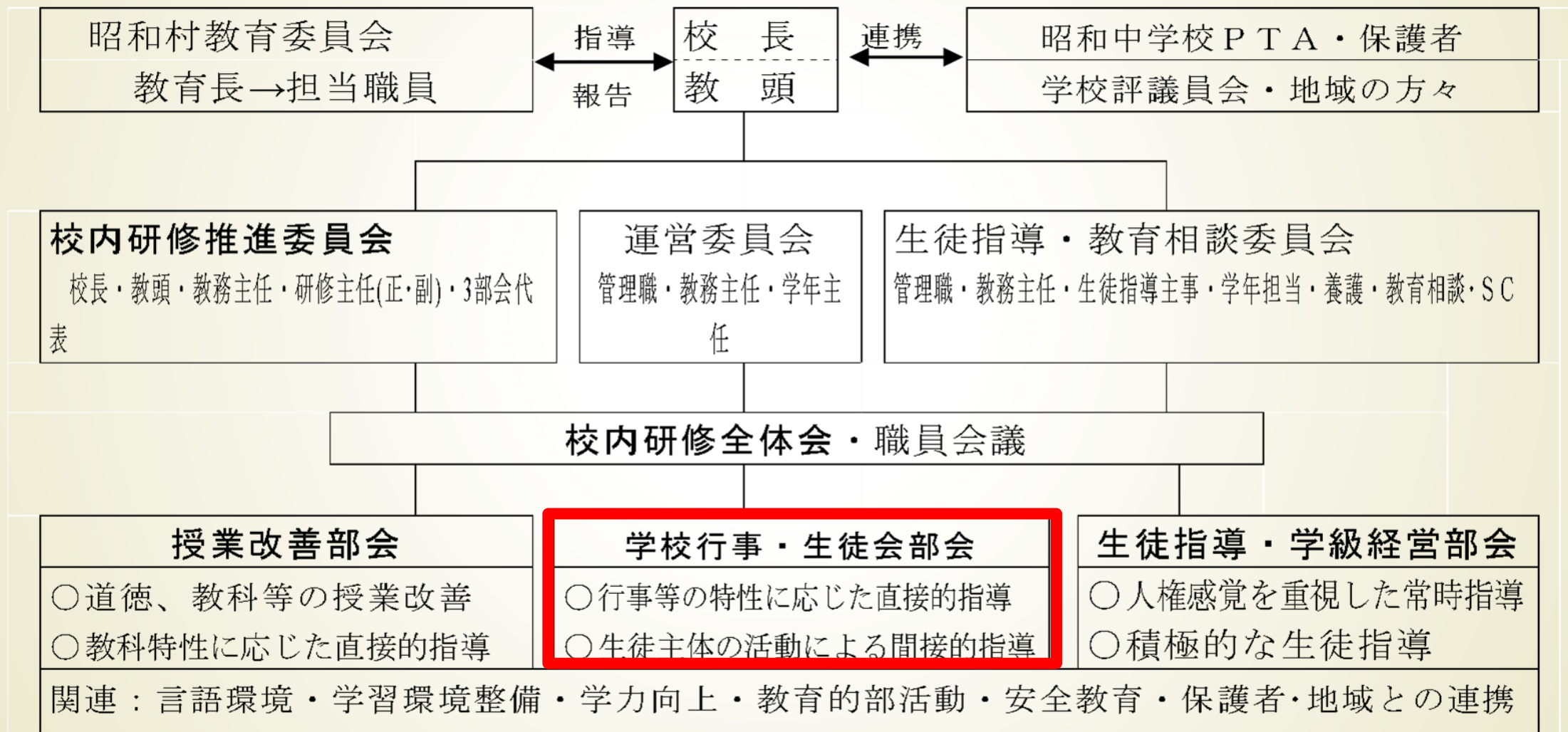
(1) 『授業改善部会』

取組4

各教科の年間指導計画別葉の作成【直接的指導の充実】

校内研修		人権教育年間指導計画																				
		①女性			②子どもたち			③高齢者			④障害のある人達			⑤同和問題			⑥外国籍の人たち					
		⑦HIV感染症者等の人たち			⑧ハンセン病元患者の人たち			⑨犯罪被害者			⑩インターネットによる人権侵害			⑪その他の人権問題								
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月									
国語	1年	①オオカミの友だち			⑪空中ブランコ乗りのキキ			⑪字のない葉書			⑪見えないだけ			⑪少年の日の思い出			③④意見文					
	2年	②「名づけられた葉」			④「見えないチカラとキセキ」			⑪戦争「壁に残された伝言」														
	3年	①水のようなひと									⑪ 論語			⑩情報社会を生きる⑪故郷								
数学	1年																					
	2年	なし																				
	3年																					
社会	1年																					
	2年																					
	3年	③①現代社会の特色と私たち			①②③④⑤⑥⑧人間の尊重と日本国憲法			①⑤第一次世界大戦と日本			①現代の民主政治と社会			①①アフリカ州								
理科	1年																					
	2年																					
	3年	④「遺伝の規則性と遺伝子」																				
英語	1年	⑥学校で			⑥わたしの好きなこと						⑥ブラジルから来たサッカーコーチ											
	2年							⑪The Carpenter's Gift			④Universal Design			④Try to Be the Only One								
	3年				②Fair Trade Event			⑪A Mother's Lullaby						⑪Striving for a Better World								
道徳	1年	②さかなのなみだ・②近くにいる友			②トマトとメロン						②二人の約束・②むかで競争			⑥遠いを乗り越えて⑥使っても大丈夫			②自分だけ「余り」になってしまう…			②旗		
	2年	②五月の風			①リスペクト アザーズ						⑩ネット将棋			②ハイタッチがくれたもの・②ヨント			③コトコの涙					
	3年	④No Charity, but a			②卒業文集最後の二行						⑩ある朝のできごと			①マタニティマーク								
技芸	1年																					
	2年																					
	3年	②③ 家族・家庭と地域									⑩情報モラル						②③④住まいの安全・災害時の住まい					
体育	1年																					
	2年																					
	3年																					
学活	1年																					
	2年																					
	3年																					
総合	1年																					
	2年																					
	3年																					

8. 各部会の取組



8. 各部会の取組

(2) 『学校行事・生徒会部会』

取組 1 学校便り、Web、人権便りの活用 →人権教育基本方針の周知徹底



昭和中だより

No. 9

発行：令和元年10月4日

昭和中学校「人権教育基本方針」について

昭和中は昨年、文部科学省から「人権教育研究推進事業」の指定を受け、「人権教育」の充実に取り組んできました。今年度、新型コロナウイルスの影響で指定事業は中止となりましたが、昨年度の取組で「心ない言動による生徒間のトラブル」が大幅に減るなどの成果が見られました。そこで、昭和中では、今年度も引き続き人権教育の充実に取り組んでいます。

育てたい気持ちや態度

自他を大切に、お互いを認め合う気持ち
人権に関する基礎的内容を理解し、差別や偏見をなくそうとする心情
身近な人権問題に気付き、正しく判断し解決しようとする意欲
望ましい関係づくりにあきらめずに取り組む態度

今年度の私たちの取組

- 「道徳科」や各教科の授業改善(よりよい授業づくり)
道徳科を通じて、自他を大切にすることを理解し、差別や偏見をなくしようとする意欲を育てます。また、道徳科でも各教科でも、生徒が自ら考え、お互いに意見を交わし、一緒に学ぶよさを味わえる授業を通して、お互いを尊重し理解しようとする意識を伸ばしていきます。
- 学校行事や生徒会活動の充実
生徒会活動を中心に生徒が主体的に取り組む活動を充実させ、協働的に取り組むよさによりよい人間関係をつくる力を伸ばしていきます。また、保護者や地域の方の力もお借りして、身近な人権問題を解決しようとする態度や力を伸ばしていきます。
- 受容的で温かい学級経営・生徒指導
生徒の人権を尊重し生徒のよさを積極的に評価する受容的で温かみのある学級経営と生徒指導を実践し、人権を尊重しようとする意識の基盤となる「生徒自身が自分を認める気持ち(自尊心)」を高めていきます。

人権教育の充実に向けた実践～校内研修の取組(指導主事訪問B)～

10月19日(金)、人権教育充実の一環として、1年2組の道徳科の授業で「相互理解・寛容」をテーマとした研究授業を行いました。全校職員で授業を参観し、授業後は授業の成果や課題について協議しました。当日は、利根教育事務所と群馬県教育委員会の指導主事にもおいいただき、ご指導いただきました。

この他にも、子供たちが「共に学ぶよさを実感し、お互いを尊重し理解しようとする意識」を育てるため、研究授業を行っています。11月19日(木)には、村内の小学校の先生方も招いて、道徳科、学級活動、社会科で、人権教育に関わる授業を公開します。子供たちの心に響く授業が行えるよう頑張ります。



授業の様子



授業研究会の様子

人権だより



昭和中学校 令和元年9月30日 No.2

北朝鮮拉致問題について考える

「拉致」とは、本人が望まないのに連れ去ることを意味します。1970年代から80年代にかけて、多くの日本人が不自然な形で行方不明となりました。日本の警察の捜査や、亡命した北朝鮮工作員の証言により、これらの事件の多くが、北朝鮮による拉致の可能性が高いことが明らかになりました。現在、日本政府が認定している拉致被害者は17名、そのうち12名は未だに北朝鮮に残されたままだそうです。40年以上の間、家族と引き裂かれ、自由を奪われ、囚われたままなのです。

さて、先日「北朝鮮人権侵害問題啓発週間 作文コンクール2019」に際して、三年生社会科の授業において、北朝鮮拉致問題について考える時間を設定しました。生徒自身が、北朝鮮拉致問題について調べ、考え、向き合うことのできる時間になったと思います。なお、生徒が書いた作文のうち、吉澤英環くん、加藤莉子さん、藤井瞳さん、吉澤美優香さんの4名の作文を、学校代表としてコンクールに応募させていただきました。

「めぐみ」を視聴して

北朝鮮による日本人拉致問題啓発アニメ「めぐみ」を、三年生社会科の授業で視聴しました。このアニメは、昭和52年、当時中学1年生だった徳田めぐみさんが、学校からの帰宅途中に北朝鮮当局により拉致された事件を題材に、残された家族の苦悩や、懸命な救出活動の様相を描いたものです。視聴した生徒からは、「お家の人に『いつか帰ります』ってほしい」と言う、こんな当たり前だと思っている日常が壊されてしまったと考えると...、「同じ中学生の時にいきなり連れ去られるなんて、許してはいけないことだと感じた」など、北朝鮮拉致問題を自分の生活と重ねながら考えている生徒も多く見られました。同じ日本人として「決して許さない」という強い決意を表し続けることが、私たちに大切なのだと思います。



拉致問題啓発アニメ「めぐみ」

私たちにできること

北朝鮮拉致問題への関心は、若い世代の関心が比較的低い傾向にあるそうです。「拉致被害者を必ず取り戻す」という強い決意を、北朝鮮に対して表し続けていくためにも、他人事ではなく自分事としてこの問題を捉えていかなくてはなりません。まずそのきっかけを掴むこと。今回視聴した「めぐみ」の活用以外にも、私たちにできることはたくさんあります。今回の学校としての取組や、この人権だよりが、人権問題を考え直すきっかけとなってくれることを願っています。

「取り戻す」ためのシンボルブルーリボン(民間団体による取組)

拉致被害者の救出を求める国民運動は、ブルーリボンと青色を運動のシンボルとしています。青色は、被害者の祖国日本と北朝鮮を隔てる「日本海の色」を、また、被害者と御家族を唯一結んでいる「青い空」をイメージしています。

8. 各部会の取組

(2) 『学校行事・生徒会部会』

取組2 保護者や地域と連携した人権学習



①生徒会活動
(人権集会)



②地域人材を活用した
人権講話

8. 各部会の取組

(2) 『学校行事・生徒会部会』

取組3 生徒会による人権活動

- ①各専門委員会の特性を生かした人権活動
- ②三二人権週間



運動会の様子



【リモートによる生徒総会】
各クラスの人権目標、
各専門委員会での人権活動発表

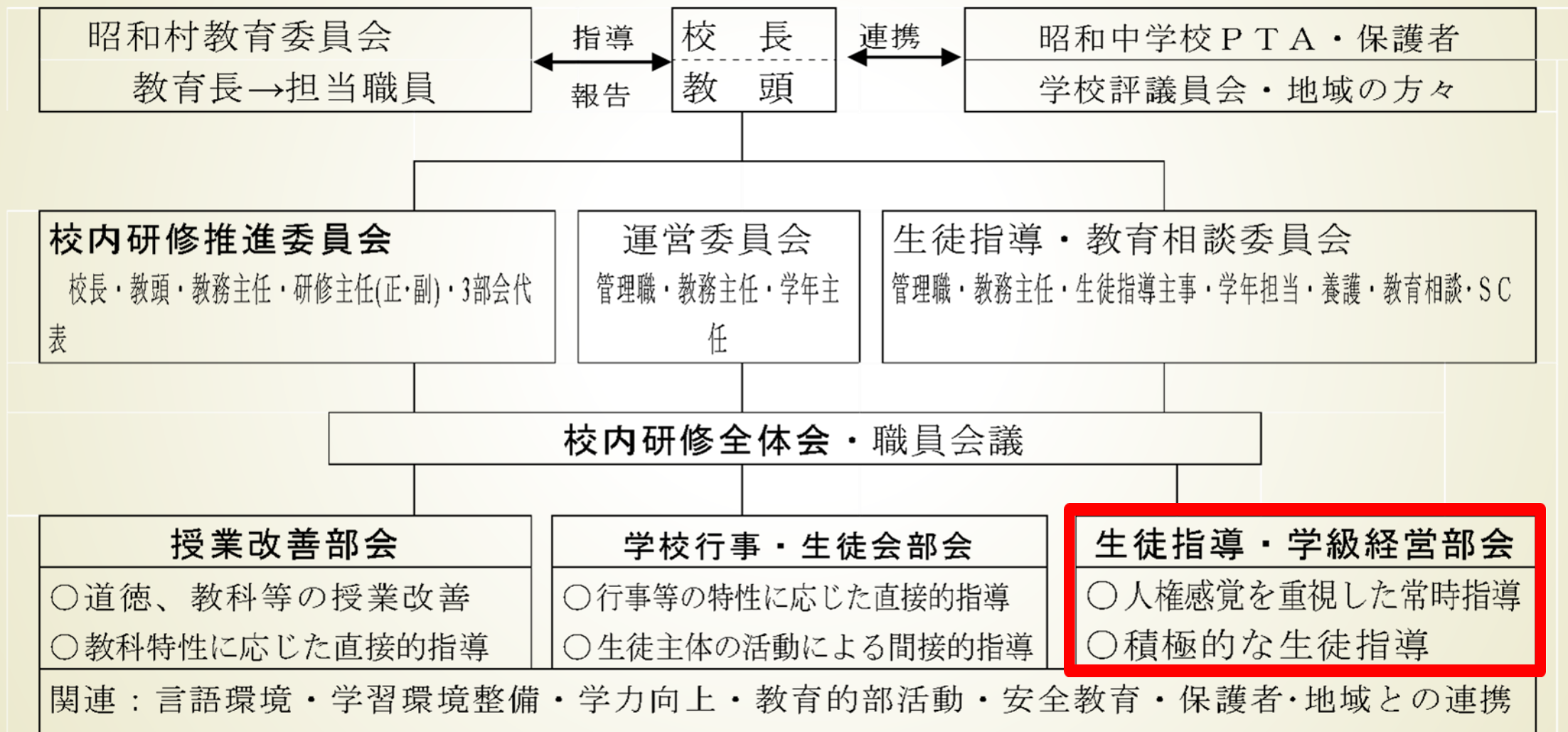


【保健委員会】
レッドリボンキャン
ペーン



【図書委員会】
人権に関する本を集めた
コーナー

8. 各部会の取組



8. 各部会の取組

(3) 『生徒指導・学級経営部会』

取組1 教師の人権感覚の醸成

- ① 人権チェックリスト
- ② 生徒指導委員会
- ③ 人権アクティビティ研修



人権研修の様子

8. 各部会の取組

(3) 『生徒指導・学級経営部会』

取組2 生徒の活躍を認め合う言語環境・ 学習環境づくり

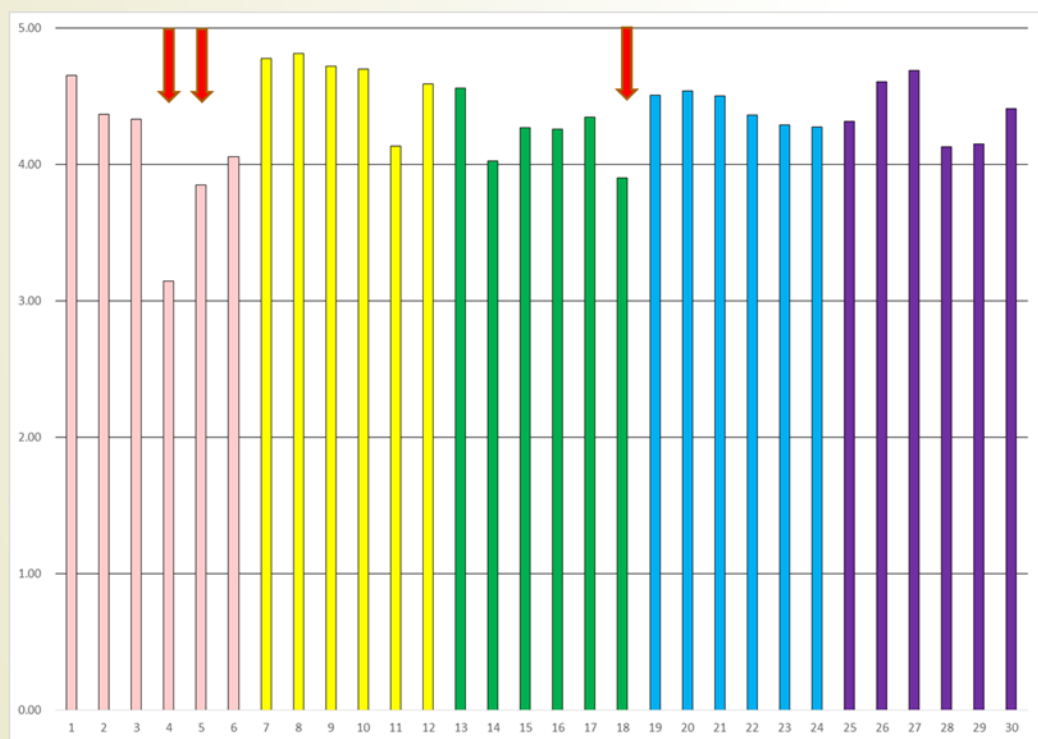
- ① 学校生活における生徒への声かけ・賞賛
- ② 教室の掲示物等、環境作りの手引きの作成



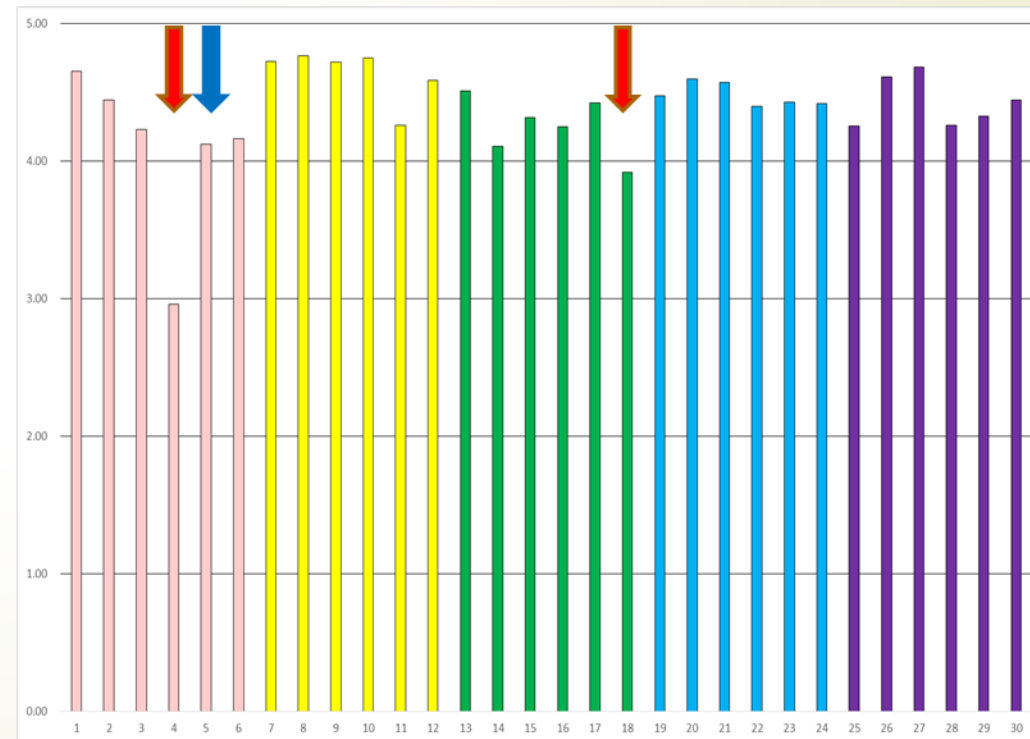
9. 取組の成果と課題

(1) 生徒の変容

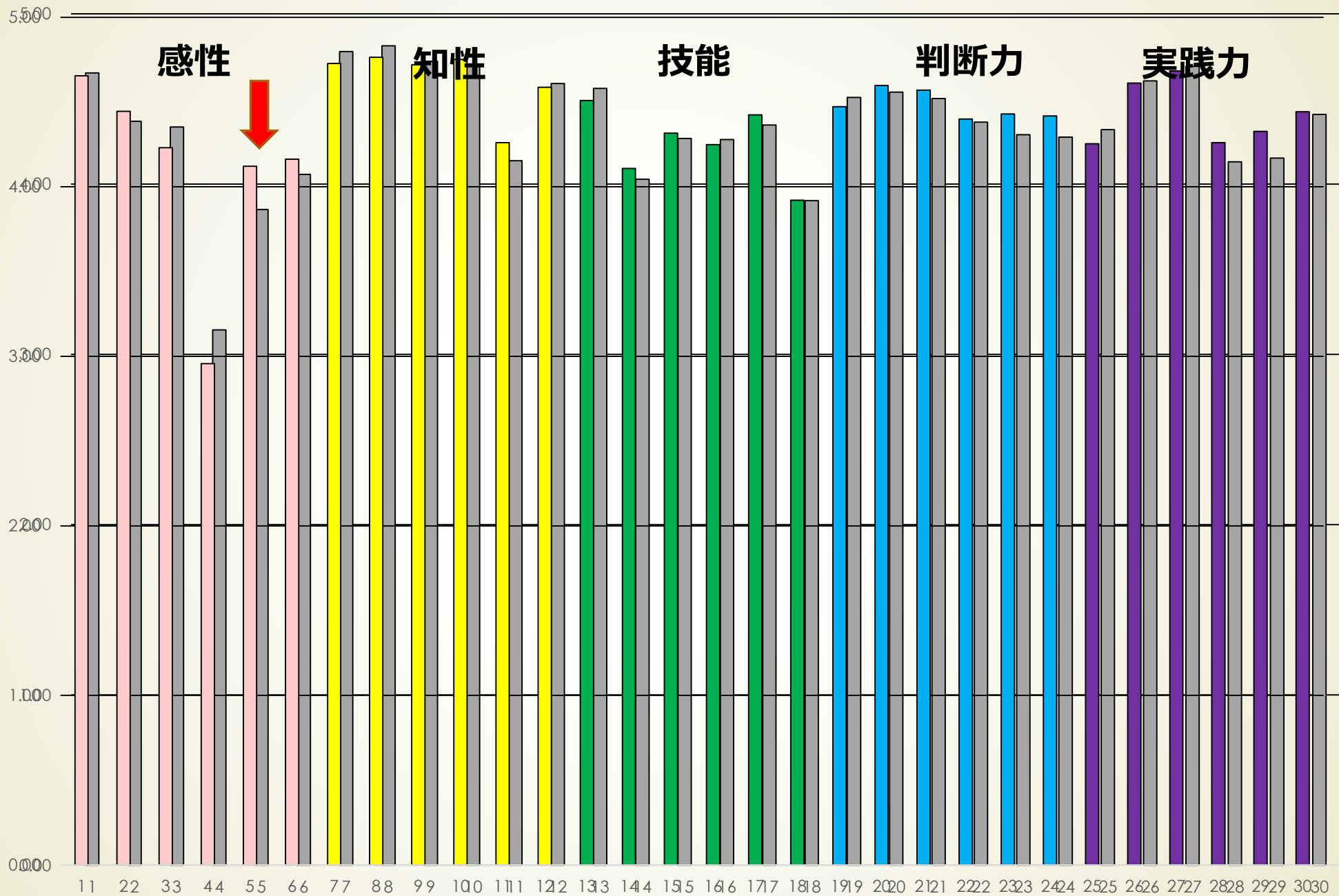
① 人権感覚アンケートの結果より (グラフ比較)



令和元年12月総計結果 (全校生徒対象)



令和2年10月総計結果 (全校生徒対象)



9. 調査研究の成果と課題

(1) 生徒の変容

② 人権感覚アンケートの結果より

感性5 「誰かをバカにしたり差別したりしているのをみると悲しかったり、腹が立ったりします。」

【昨年度との総計比較】（5段階評価における総平均）

R.1 12月

3.85

→

R.2 10月

4.12

+0.27

【同生徒比較】

R.1 1年生12月

3.76

→

R.2 2年生10月

4.07

+0.32

R.1 2年生12月

3.83

→

R.2 3年生10月

4.18

+0.35

9. 調査研究の成果と課題

(1) 生徒の変容

③ 学校評価・生徒指導委員会の報告事例より

【学校評価アンケートより】

H.30 12月

R.2 7月

生徒 「相手を尊重して行動ができる」… 93.5% → 95.1%

【対人トラブル発生件総数】（同生徒比較）

H.30 1年生
(4月~3月)

R.1 2年生
(4月~3月)

R.2 3年生
(6月~11月)

R.1 1年生

R.2 2年生

16件 → 4件

55件 → 14件 → 11件

9. 調査研究の成果と課題

(2) 成果

- 生徒の人権意識と実態とのギャップが小さくなった。
- 差別を許さない人権意識が高まった。
- 自分の言動の影響を考え、行動できる生徒が増えた。
- 校内の推進体制を整備し、全教育課程において構造的な指導を行うことで各部会での役割が明確になった。
- 年間指導計画の見直しを行ったことで、年間を見通した直接的指導の共通理解につながった。

9. 調査研究の成果と課題

(3) 課題

○「自分の考えを積極的に伝える力」の更なる向上

⇒自他を尊重して共存するよさの理解へ

○構造的指導の積み重ね

⇒正しく判断し、行動する生徒へ

○教科のねらいと人権教育のねらい

⇒各教科のねらいを明確にした上での人権教育

ご静聴、ありがとうございました

